

漫 録

路 政 夜 話 (一)

幹 事 武 井 群 嗣



一 國勢調査と東京

昨年十月一日午前零時現在を以て行はれた、大正十四年國勢調査の結果によれば、東京市の人口は百九十八萬百二十一人とあり、八正九年の國勢調査に於ける約二百十六萬に足らざること實に十八萬と云ふ數を示し、大阪市に次ぐ

全國第二の都會となつた。が然し、大阪市は其の年の春に於て東西兩成郡を合併した爲めに著しく人口を増したのであるから、日本一の大都市に成つたとて、一概に威張るにも當らぬし、東京市の人口減少は大震災災に基つのであるから、二番目に落ちたからとて強ち悲觀するにも及ぶまい。凡そ都市が發達すればする程、其の人口は晝と夜とに

於て著しき差を示し、従つて國勢調査の如く午前零時現在を以て人口を數へる場合に於ては、其の度毎に人口は減るばかりとなる。例へば倫敦市 (City of London) の如き、一九二一年の市勢調査によれば、市内に住む人の數即ち夜の人口は僅かに一萬九千六百五十七であつて、而かも漸次減少の傾向を示し、其の翌年に於ては一萬三千七百九人となつて居る。然るに此處に集つて毎日働いて居る者の數、即ち晝の人口は一九二一年に於て三十六萬四千六百人となり尙漸次増加の傾向を示して居る。此の實例に徴すれば東京市の今回の人口減少が、假令大震災火災に其の源を發すとするも、恐らく今後に於て此の減少を埋め合せることなく寧ろ次第に減少の度を加へて行くであらう。而して此の事たる文明都市の進むべき筋道に外ならぬ。蓋し大都市は住むべき場所に非ずして、働くべき地域であるから。

○
更に之を仔細に點檢すれば、麻布、赤坂、四谷、牛込、小石川及本郷各區の所謂住宅地域と目さるゝ地方に於て、

世帯又は人口に若干の増加を見るに拘らず、所謂商工業地域と稱せらるゝ、其の他の諸區の人口は孰れも一割乃至二割の減少を來して居る。然らば此の減少した人口は何處へ流れ出たか若干の増加を示したと述べた所謂住宅地域でも、其の實數は一區僅かに數千人に過ぎず、其の増加の割合亦辛うじて四分五厘に止まるとすれば、此の五ヶ年間に少くも全國平均の自然増加率を以て増加すべかりし人口は何れに處を求めたであらうか。抑も亦押へ難き都市集中の現象は既に之を見ざるに至つたのであらうか。

東京市郊外の町村を尋ねて見やう。市に直接する品川、大崎、澁谷、千駄ヶ谷、澁橋、大久保、戸塚、高田、巢鴨、日暮里、南千住、龜戸、大島、各町の如きは、近年異常の膨脹を爲し、既に事實上東京市街の一部を成すに至つたので、此の五年間には人口増加の割合に少く、概して二三割に止まり、其の多きものと雖やうやく五、六割に過ぎず彼の日本第一の町を以て誇り人口十萬と號るす澁谷町の如き、調査の結果は十萬に足らず、偶々十月一日騎兵聯隊に

入營すべき壯丁を見送つて地方より集つた人々の約三百人が前夜町内に旅宿したのを加へて、辛うじて九萬八千七百八人となり、斯くて前回に比し増加の割合二割二分強となつたと云ふ嘘のやうな話さへもある。

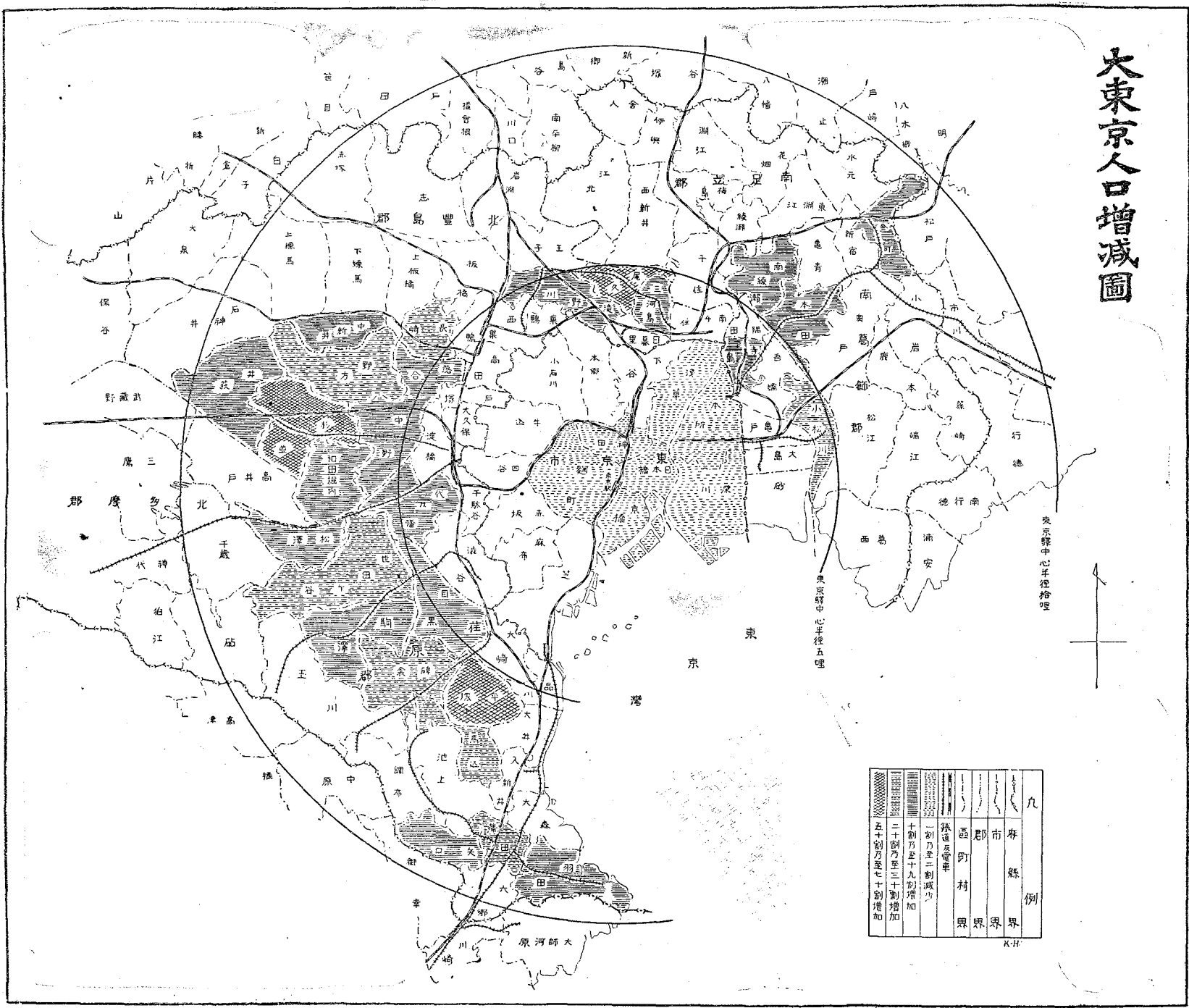
更に眼を轉じて是等の外郊を繞る町村を點檢するならば茲に最近著しく膨脹したる幾多の小都市を見出し、東京市に増加すべかりし人口の大部分は此處に集まり、所謂地方人の都市集中の行はれて居ることを知る。即ち荏原郡の目黒、松澤、駒澤、矢口、豊多摩郡の中野、和田堀内、井荻落合、代々幡、北豊島郡の瀧野川、三河島、中新井、西葛飾郡の金町、本田、南綾瀬、寺島各町村は前回に比し十割乃至十九割を、世田ヶ谷、馬込、蒲田（以上荏原郡）野方（豊多摩郡）長崎（北豊島郡）小松川（南葛飾郡）の各町村は二十割乃至二十九割を、碑衾村（荏原郡）は三十二割を増し、更に尾久町（北豊島郡）は五十三割、杉並町（豊多摩郡）は五十五割、平塚村（荏原郡）は七十五割と云ふ驚くべき増加を示して居る。依て之を計算すれば、東京市は

前述の如く其の市域内に於て約十八萬人を失つたけれども所謂東京都市計畫區域に屬する隣接五郡に於て、前回の百十六萬六千人は二百九萬三千餘人となり、實に九十二萬七千餘人を増加した。

○

斯の如く此の五年間に於て東京市の商工業地域に人口の減少を來し、市を繞る隣接第一線の町村に於ける膨脹も略ほ一段落を告げ、今や其の第二線に於て激甚の増加を見るに至つたのは、其の原因種々ありとするも、畢竟都會に住むべき處なく、假令之れ有りとするも、其の生活の煩に堪へ兼ねたるに因り、而して之を助けたるものは、近時郊外に發達せる鐵道軌道の敷設に在ることは、上に述べた夥しき郊外の發展地が、悉く市を中心として四通八達し又は之を循環する省線鐵道並びに都市界を起點として四方に放射する大小幾多の鐵道軌道の沿線に在るを見れば自ら明かでありう。勿論交通機關の發達と土地の發展とは互に相原因結果して行はるゝものであるが、茲に於て吾人の考慮せね

大東京人口增減圖



九	市	郡	町	村	界	界	界
一割乃至二割増	二割乃至四割増	五割乃至七割増	一割乃至二割減	三割乃至五割増	六割乃至九割増	十割乃至十九割増	二十割乃至三十割増
特別区	市	郡	町	村	界	界	界
特別区	市	郡	町	村	界	界	界



東京市中心を徑り

東京市中心を徑り五哩

ばならぬ事は、此の如く外へ外へと不規則に膨脹する都市に統制ありしむるには、先づ以て一定計畫に基く道路網を決定し、之に加ふるに將來を慮れる鐵道軌道網を以てすることである、而して既に決定せる道路網あらば速かに之が實現に努力すべきことである。

都市をして眞に活動の場所たらしむるには、先づ第一に地域の内外に渉る道路網を作らねばならぬ。そして取敢へず環狀放射兩道路の築造を完成し、以て高速度交通機關の發達を促がさねばならぬ。而して此の事たる特に我が東京の現状に於て然る所以の緊急なるを見る。

二 自轉車取締の反響

警視廳の交通取締で最近新聞紙上を賑はしたものが二つある。一は市内に於て交通の最も頻繁なる新橋萬世橋間に自轉車の交通を禁ずると云ふ内議で、他は手に物件を携帶して自轉車を運轉することを禁ずることを明定した新自轉車取締規則の發布である。少しでも東京市の交通に意を注

ぐ者から見れば、兩者共に當然過ぎる程當然の事柄であると思ふのに、前者に對しては沿道に於ける自轉車乗用者と市内に於ける自轉車營業者より成る組合の反對が有り、後者に對しては總數三萬と號する蕎麥屋の死活に關する大問題なりとして其の聲を大にし、共に區、市、府會議員乃至は代議士などの所謂有力家又は大政治家に請托して盛に其の反對の氣勢を揚げて居る。

○

東京市内に毎日幾何の車輛が動いて居るかは到底數字を以て之を表はすことが出來ぬが、昨年末に於て東京府管内に自動車一萬一千、特殊自動車五百、自轉車三十五萬、荷牛馬車一萬八千、荷車十一萬三千、人力車一萬を算する中恐らく其の大多數は東京市内及其の近郊に活動して居ると見て誤無からうし、又隣接他府縣より入り込んで活動する自動車の種類も其の數決して尠くない。而して是等車輛の往來雜沓する市内には、更に市營電車の二千餘臺が運轉され而かも是等の車輛が自由に故障無く活動するに適する如く

道路は未だ改良されず、剩へ市民の訓練が行届いて居らぬから此の儘にして交通状態の秩序維持は到底之を望むべくも無い。従つて交通事故は日に日に増加する許りであつて之を本年一月中に於ける分のみに就て見ても、自動車によるもの四五五件、電車によるもの一三五件、自轉車によるもの三二二件、自動自轉車によるもの二二二件、手挽荷車によるもの三八件、荷牛馬車によるもの九〇件と云ふ夥しき事故を發生して居る。

交通事故件数を表示すれば、略前記の如くであるが茲に注意せねばならぬことは自轉車による交通事故である。僅かに脚力を以て運轉し左右進退一に乗用者の意の儘になる筈のあの小さな車輛が、勿論其の數の夥しきが爲めにもせよ兎に角自動車に次ぐ多數の事故を發生せしめて居るのに一驚を喫するが、更に其の他の事故の原因を調査すると、其の結果に現はれた所は、例へば自動車による事故であつても、實は走り來る自轉車を避けんとして遂に他に傷害を與へたと云ふ様に事故發生の抑の原因が自轉車に在りし場合

が非常に多い、とは親しく交通取締の任に當る者の證言する所である。して見れば、警視廳が自轉車を眼の敵のやうにして、從來放任に等しかつた其の取締を勵行せんと志したのは、固より大に理由の有ること、之に依て幾分でも交通事故の發生を未然に防止することを得ば、獨り市民の幸福のみでは無いと信ずる。

○

警視廳では交通整理の一方法として現に銀座及其の裏通に所謂分路式交通整理法 (Channeling Traffic) を實行し道路を通行し得る車馬を一は自動車のみ限り他は荷車に限定して好成績を得たのに鑑み、今度は市内に於て最も交通の頻繁な新橋萬世橋間に自轉車の交通を禁止するの方針を立て、先づ之に對する道路管理者の意見を徴した。然るに不幸にも此の議は中途にして外部に漏れ、俄然沿道市民より反對の聲起り、之を煽るに平素善惡共に顧客の利便をのみ念とする自轉車同業組合の運動を以てするに至つた。然しながら吾人を以て見れば反對論者の言ふ所は一顧の價

値も無い。新令は決して市内一般に自轉車の通行を禁止した譯でも無いし、此の地帯を通過せんとする者は寧ろ交通上の制限を受けぬ裏通りを通れば却て所要時間を短縮し得るし、地帯内沿道者にしたところが、自轉車が通らぬ爲めに商賣が出来なくなるでも無からう。若し夫れ所謂有産者の自動車に禁ぜずして無産者の自轉車を禁ずるは時代錯誤だなどと放言するに至りては全く沙汰の限りで、此の新令

勵行の結果は寧ろ有産者に驅使せられ交通事故發生の危険を冒しつゝ、自轉車に乗りて走り廻る無産者を却て安全地帯に救ひ入るゝこととなるを知らぬ者の謂である。が然し、議論は兎に角、餘りに反對の氣勢揚れるを見てか、乃至は此の方針を貫徹するに時期惡しと見てか當局は暫く此の問題を保留することに決したらしい。吾人は當局の此の措置を諒とするも、希くは速かに適當の時期を見出し、以て所期の目的を達成せられんことを。蓋し何時の世如何なる時期に於ても無秩序より秩序を作り、混亂を統制に導かんとせば、必ずや其の影響を受くる者より多少の反對不平の起る

は免れ難き自然の數である。之に怖ぢては交通狀態の秩序維持も其の改善も到底之を望み得ず却て天下萬民の不幸となる結果を齎すであらう。

○

自轉車取締規則第二十三條の規定に對する反對も亦一顧に値せぬと信する。元來自轉車は兩手と兩脚とを以てして初めて完全なる運轉を爲し得るものである。勿論熟練したる者に在りては兩手を放つも尙よく之を走らせ得るが、其の人とても、決して進行停止、左遷右就其の意の儘に之を爲し得ざるは明かである。況や自轉車には音響器及制動機を裝置せしめ、時と場所とに應じて適宜之を使用せしむべきは法規の命する所であるをや、之に反して手に物件を携帶しつゝ、有效に制動機を使用することは全く出来得ざる相談であり、若し之をも看過せんか、其の惹起るべき影響は蓋し恐るべきものがあるであらう。否現に頻發する交通事故中には自轉車の正式且完全なる操縦を爲さざりしに因るものが極めて多いのを見て、此の取締を勵行するの必

要あるを知る。而して此の規則は自轉車に依る蕎麥屋の出前を禁止するのでは毛頭無い。勿論之に依つて出前持ちは從來放任の時代に於けるよりは幾分の不便を感じるであらう。然しながら之とても蕎麥屋の死活に關する問題では無く、寧ろ之が爲めに二百萬市民に對する幾分の危険防止となるのであるから、理由なき蕎麥屋の要求に對して除外例などを許すべき筋合でないと思つた。殊に奇怪なるは之に關して市議、府議などと云ふ所謂名譽職が當局に對して頻りに之が除外例を要求して居ると云ふ噂である。言ふ迄も無く是等名譽職に在る者は市民全般の安寧幸福をこそ期すべきなれ、市民百萬分の一に當る人々の多少の不便を除かんが爲めに全市交通状態の秩序維持と其の改善とを犠牲にすべきでは無い。若し然らずして濫りに之を當局に迫るならば、之れ公職に在る者が或る者の請托を容れて云々すると非難されても辯解の辭が無いであらう。吾人は當局が徒らに左眊右顧する所なく新規定の通り之が勵行に努力せられんことを望むや切なるものがある。

三 警視廳の豫算

東京府の大正十五年度當初豫算は曩の府會に於て歳出經常部同臨時部を合せ、市部及郡部負擔による府歳出並に市部歳出及郡部歳出を合計して總計四千四百四十七萬八千餘圓と決定した。東京府の歳出豫算を見て何時もながら奇異の感を懷かしめられるのは警視廳の豫算である。

今暫く歳出臨時部を別として歳出經常部を點檢すれば、其の合計二千四百三十八萬四千餘圓の中に警察費千五百六萬四千餘圓の計上されて居るのを見る。由來東京府の經常及臨時總豫算中警視廳所管に屬する分は、實に其の六割餘なる二千六百萬圓餘を占め、其の規模に於ても官制上東京府は書記官僅々二名なるに對し警視廳は五人の書記官を備へて堂々たる陣を張り、正に所謂母屋を奪はれた感があるのであるが、夫は別問題として、此の歳出經常部に於ても其の總額の六割餘を占むる警察費が、豫算形式の上に於ては正に二十九款中の一款に計上されて居ることは注意せね

ばならぬ。勿論之とても各府縣に共通する一定の豫算形式が法規に依つて定められてあるのに據つたのでは有るけれども、特に東京府に於て千五百萬圓の金額が一歎に集められてあることは其の經理の上に於て重要な結果となる。即ち一は總額の四割弱が二十八の歎に分れて計上され他は六割強が一歎となるも、各歎内の項目の流用に就ては皆同一の手續を要し又は之を要しない事となる。露骨に言へば彼此融通のきく程度に宵壤の差があること、なるのである。

○
が然し、之は東京府と警視廳との間の、謂はゞ内輪の話であつて吾人の茲に問はんと欲する所では無い。それよりも問題にして見たいのは警察費國庫下渡金のことである。否もつと遡つて警視廳に要する經費を、就中、少くとも警察費を全部國庫で負擔しては如何かと云ふことである。若し警察を其の性質内容に依つて國家事務に屬するものと地方事務に屬するものとに分つことを得るならば、一般に國家的性質を有する警察に要する費用を國庫が支辨し、交通

衛生建築警察の如き地方的性質を有する所謂自治警察の費用を地方に於て支辨することは何人も異存が無いと思ふが今日の如く分たざる場合に在りては、警察の内容に地方的分子を含む以上、地方費と國庫とに於て之を連帶支辨するは當然のことと思ふ。然し帝都所在地たる東京府の警察が地方のそれと異なる重要さを有することは別に警視廳を特設するの一事に依て之を證明せられ、國庫も亦東京府警察費が千六百萬圓を超えざる限り特に其の十分の六を負擔することに依て明かである。けれども、吾人を以て之を見れば、國家は僅かに四割の經費を東京府に負擔せしむるが爲めに測り知るべからざる損失を蒙りつゝあると思ふ。六割の國庫下渡金があるから。」と云ふのが都合のよい口實となつて警察費は年々著しき膨脹を加へつゝあつた。が、それは未だ忍ぶべしとするも、僅か四割の爲めに警察行政の全般に對して所謂府民代表者の容喙を甘受せねばならぬ。吾人は決して所謂警察の民衆化と云ふことを排斥するものではないが、それは自ら其の範圍を交通衛生建築其の他所謂

地方自治警察に限らねばならぬ。然るに此の四割の爲めに府政に參與すると號して全警察の活動を制肘し其の委員と稱して警視廳を我が物顔する者有るを甘受せざるべからずとせば、爲めに警察の威信を傷け都下一萬二千警察官吏の腦裡に或る暗影を懷かしむるの虞なしとせぬ。吾人は此の意味に於て帝都警察費全額國庫負擔を主張せんとするものである。傳へ聞く、嘗て東京府會に警察費全額國庫負擔の議起るや、一人の之に反對する者も無かつたが、二三日を経て再び之が論議せられた時に其の間慎重審議の結果、一人の之に賛成する者も無きに至つたと云ふ。蓋し這般の事情を雄辯に物語るものでは有るまいか。之を譬ふれば四割の株主で十割の完全なる發言權を得る、こんな都合のよい會社が他に又と有らうか。

○ 吾人が帝都警察費（出來得れば警視廳費）全額國庫負擔を主張するのは敢て奇を好む譯でも無く、さればとて他に類例の無い譯でも無い。我が國一部の人々が動もすれば盲

目的に模倣せんとする米國——自由平等の本家本元として又世界中最も民衆的な國として羨まる、米國の首府ワシントンには政府直轄の極端な官僚政治の下に置かれ、六十萬市民は市長及市會議員の選舉權は固より國會議員の選舉權も完全に奪はれて居る。即ち華府——嚴密に云へばワシントンでは無くコロンビア區で、此の區の中に華府が有る。故に公文書には皆 Washington, D.C. (District of Columbia)と書く——現在の制度は委員政治で、三人の委員中二人はコロンビア區の住民中より大統領之を任命し、他の一人は陸軍將校中より選抜される。何れも任期は三年で之が一の委員部を組織して市長の任務を行ひ、又事務の統一を圖る爲めに各事務擔任の一委員となる。而して合衆國憲法に依つて聯邦議會はコロンビア區の立法に關して絶対權を有するが、又各種の法令に依て種々の權限を委員部に委任してある。而してコロンビア區經費の財源は區住民の不動産に對する課税と國庫金とであるが、其の豫算は委員部より大藏省に見積りを出し政府は之を議會に提出し、兩院の議を経

て大統領の署名に依り公布されるのである。今や世界を擧げて町も村も澎湃たる民衆政治の渦中に在るのに、獨りワシントンが極端なる官僚政治の下に在るのは、其理由固より種々あるであらうが、要するに中央政府の所在地として之を政争の渦中に投ぜしめ度くないとの見地に立つのであらう。

警視廳經費全額國庫負擔が出来ぬのなら、逆に、思ひ切つて警察行政に對する府民の參與權を奪ひ取るとしたらどうなるものだらう。

四 圓太郎物語

必要と云ふ事は偉いものだ。乗合自動車取締に對する政府の方針を如何に定むべきか、保護監督主義か自由放任主義か、法律の制定を要するか乃至は警察命令を以て足るかなど、論議して居る間に、それを知つてか知らずしてか、乗合自動車の数は驚くべき速度を以て増して行く、ヤレ青バスを乗り越すな、ソレ何哩以上を走るな、と所謂圓太郎

虐めを警視廳の怖いおぢさんが幾らやつても、又大藏省のお役人が起債は絶対に罷りならぬと頑張つても、震災直後にガタ／＼走つたお粗末なトラツク姿は何時の間にか、ボデーを改めタイヤを替えお化粧を施して市中を濟まして歩き、此の頃になつては前面に山形の印をつけ陸軍省の焼印を押しした所謂高級圓太郎ウルズレ型が青バスを尻目にかけて悠々と走るまでに進んで聚た。必要と云ふものは偉いものだ。

が然し、市のお役人もなか／＼商賣振りを發揮する。青バスとの競争線には車體も大型のや新しいのを、時間も正確に且頻繁に運轉せしめ、「どんなもんか」と冷しい顔をして居るが、然らざる線には古い小さい車を出し、それも時々競争線の方へ臨時引上げを行はれるので、来るか／＼と十分も二十分も待ちほけを喰はされる事すら屢々ある。だが之も自衛上已むを得ない事かも知れぬ。唯望むことは速に全市街を通じて乗合自動車を走らせ、眞にバスのバスたる役目を演ぜしむる様努力を續けて欲しい。車體をもつと

改良して乗心地よくする事も勿論である。

車體の改良と云へば、倫敦のバスのやうに二階付のものにしたら如何かと云ふ説が、所謂洋行販りの仲間からよく聞える。街路の改良が漸次完成しつゝある状態に鑑みれば二階付のやうなバスでも其の重さに耐え得るであらう。尤も二階に乗る人は架空電線に首縊りをやらせられる事が有るかも知らぬけれども、それは別問題として、その先に横はれる根本問題は日本の國民性及服裝との關係である。即ち日本人は昔からの慣習で、兎角割據を好み引籠主義籠城主義を遵奉し威儀を正し威嚴を尊むから、自動車でも幌よりは箱の方を尊重する。従つてバスのトップから都大路を眺めるなど、云ふ淡白輕快さは當分之を望まれまいし、假令それが出来ても、和服姿に下駄穿きの儘では到底駄目だらう。恐らく二階付バスを喜ぶ今日の子供達が大人になる將來迄は市民に歓迎されなと思ふ。

○ 將來のことは後の問題として、先頃警官の只乖りと云ふ

事件から赤襟嬢、市電自治會、警察と云ふ三角關係を惹き起して一時新聞の三面記事を賑はした事があつた。事の眞偽は別として、巡査は電車に只乗れると思つて居る如く圓太郎にも同様に考へて居たらう、が流石に腰掛けに濟まし込む譯にも參らぬから遠慮して交通取締規則に所謂乘客を搭せてはならぬ場所たるステツプに立つて居る、赤襟嬢にして見ればそれが却て客の乗降に妨げとなるから、「中にお這へり下さい」と云ふ、然るに巡査の方ではロハと云ふ引け目があるから、赤襟嬢の此の言葉がグツと胸に應へる、そこでおとなしい方は其の儘に濟むが少しでも尊嚴を冒瀆されたかの如く考へる方は俄に賃金を出して「俺もお客だ」と居直る、が此の方は夫れ丈で済まずに、後になつてから「交通取締規則の勵行」と來るらしい。どうも有りそうなる事と想像される。そこで平生警察を眼の敵にして居るらしい市電自治會側では赤襟嬢に同情して「軌道取締規則の勵行」と出た、すると警察側では「電車内の治安維持の爲め」巡査を無料乗車せしめるのだ、と言つたとか言は

ないとか云ふ。新聞は面白いから有る事無い事取り混ぜて面白く書く、警察の悪る口を叩くのだから之が爲めに讀者は増すとも減する心配は毛頭無い。争の結末は總べて元通りと云ふ事に落着いたらしいが、何でも警視廳からは一般に只乗りを禁ずるお達しが出たと云ふし、市からは警察に若干のバスを贈つたと云ふし、交通取締の方針は従前通りとなつたと云ふ。事の眞偽は之を詳にしないが新聞は「赤襟嬢の勝どき」だと評して筆を納めた。

○
濟んだ後で、扱て考へて見ると、何れも詰らぬ事だ。調査と云ひ市電従業員と云ひ赤襟嬢と云ひ、百、千、萬を以て數ふる大衆なもの、その中には色々の人間が有る。只乗りを役徳と心得て、若しそれを云々すれば恰も威嚴を傷けられたかの如くに誤解して却て報復手段に出やうとする調査も多數の中には無いとは言へぬが、夫が巡查の全部だと全然信じられぬ。と共に市電従業員側にも種々雑多なのが居る。赤襟嬢にも色々あつて、仕事そのものを楽しんで働

らいて居るのも有れば嫌々ながら動いて居るのも見える。

おとなしい眞に娘らしいのも居るが箸にも棒にもかゝらぬすれからの女も有る。二月の文藝春秋に誰やらが書いたと記憶するやうに、「圓太郎に若い男と女とが睦み合ひつゝ、働いてるのは見るからに美しい、タイヤのパンクした時など闇夜の泥路に二人して働いて居るところは尙更だ」とは思ふし、女車掌なるが故に、兎もすれば尖り易い乗客の神經が和らぐ効果も大であらう。然し餘り睦み合ひ過ぎた結果は交通事故を惹き起し「運轉中運轉手に話しかかることお断り」の「其筋からのお達し」を頂戴するし、随分乗客をやり込め兼ねない赤襟嬢も居る。尤も之とても其の始は老幼の人達を抱いて乗降せしめたり、降りんとする目的地と賃銀區間制との關係を説いて乗客に無用の失費をさせぬやう心掛ける様な温か味と親切心を待つて居たのだらうが日を経るに従つて折角「停車場一つ分だけ置いて置く」と言つた親切心が却て仇となり、慥々途中で下車しながら「俺の方でまけて遣らア」と毒づく男に出遭つたり、或は

今乗つた許りのお客同志が「餘り込み合ふから降りやう」と言ふたのを隙かさず「直ぐお降りになる位なら初めからお乗り下さいますな」とつぶやいたが最後「何を生意氣な乗らうと降りやうと賃金さへ拂へばお客の勝手だ」と俄に十錢玉を叩きつけられたりして、次第次第に世の荒波の洗礼を受けるのを目撃すれば善惡正邪それ何れなるかを判断し難くなる。

圓太郎物語を書き續ければ際限ないが、扱て考へて見る

五十一 議會總勘定

院内より院外へ

××新聞記者

覆面生

忠業妥協から始まつて紛争亂闘に終つたのが五十一議會の特書すべき總決算であつて、政府提出法律案八十六件中未成立二件撤回案一件にて他は悉く通過したるは與黨懣忍

と詰らぬ事だ。詰らぬ事だが扱又考へて見ると其の間につくづく考へさせられる事がある。お互に我々は何故もつと自分の仕事そのものを樂みつゝ、慟らく事が出来ぬのだから、自己を愛し自分を尊重する如く、何故もつと他人を愛し他人を尊敬することが出来ないのか。綱紀の振正も交通状態の秩序維持及改善も皆その源は茲に存するであらうと思ふ。

自重の賜物なりなんて言ふ効能書の御吹聴は私共の國民生活には何等交渉がないのである。而も各政黨の議會終了後の發表したる我政黨の威力は……なんて言ふことになつて